

# 思春期の子どもを育てるメソッド

コミュニケーションを通して  
トラブル解消のスキルを磨く

ピア・サポーター……。そう聞いても、ピンとこない方が多いでしょう。ピア(Peer)は仲間、サポーター(Support)は支援の意味。簡単にいえば、困っている仲間を自主的に支援することです。同校では、このピア・サポーター活動を中学の道徳の時間に取り入れています。スクールカウンセラーの五嶋幸子先生は、その背景を次のように解説します。

「総務省の調査によると、小中学生の5人に1人は『人といると疲れる』、2割以上は『人は信用できない』と感じています。その反面、90%以上の小中学生が『人の気持ちがわかる人』

間になりたい』『人に親切にしたい』と  
思っています。

確かに最近の教育現場ではコミュニケーションが苦手な子ども、新しい環境への適応が難しい子どもの増加が課題になっています。そこで本校は、生徒相互の人間関係を育てることを重視してピア・サポーターを推進してきました。これは、何か問題が起きてからの対処法ではなく、問題が起きる前の予防的な取り組みなのです」

週1コマ、年間35コマある道徳の時間の中で、中1と中2は各6回、中3は3回、ピア・サポーター活動を実践しています。テーマは中1の『自己理解』から、中2以降は『他者理解』へと広げていくという流れです。それでは学年ごとの具体的なプログラム

## 大妻中野

スクールカウンセラー：五嶋幸子先生  
生徒部：本多 悠先生  
入試広報部：諸橋隆男先生

ラムを紹介しましょう。  
中1では入学式の数日後、早くも1回目のピア・サポーター活動が行われます。ここでは『ピア・サポーターとは何か』『自分の長所探し』『自己紹介』などから始めます。

「自分を大切にできない人は、他人を大切にできないというところからのスタートです。まずは人間関係がスムーズに行くようにするための準備です」

中2では、例えば『話の聴き方』のロールプレイが行われます。悩みを打ち明けられたとき、『目を見ないで聴く』『目を見て聴く』といった具合に聴き方の違いを実践してみることで、話し手の受け止め方の違いを知ることになります。こうして生徒たちは聴き方、大切さを実感していきます。とりわけ最近では顔の見えないメールのやり取りが多くなっているため、顔を見て聴くという実践が重要になるそうです。

中3になると、友達同士の対立を解消するロールプレイがあります。3〜4人のグループになって、校内で起りうるトラブルを設定し、対立する2人と仲裁役を立てて、解決策を考えていきます。

「これまで日本では、対立は悪いことだという指導でした。先生が『謝りなさい』と言うのが解決の仕方だったので、そうではなくて、人間は対立するものだということを前提に、仲間同

ピア・サポーター活動の授業風景。ロールプレイによる実践を通して仲間同士で支え合うスキルを学んでいます。



士で話し合いながら解決していく力を育てていきます」(五嶋先生)

### 生徒や受験生の相談にのる「ピア・サポーター制度」

こうした授業内での取り組みの発展形として導入しているのが『ピア・サポーター制度』です。これは、中3から高3までの生徒から希望者を募り、ピア・サポーターとして活動してもらうというものです。日本ピア・サポーター学会認定トレーナーでもある担当の養護教諭・本多悠先生が説明してくれました。

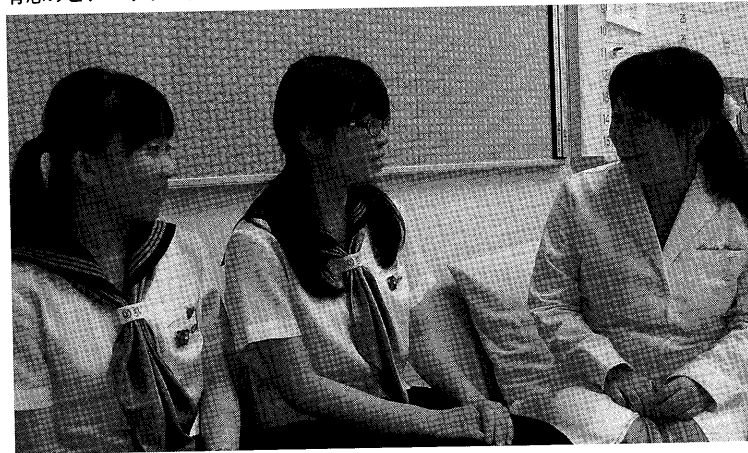
「生徒同士の相談活動を進めていきたいと考えて立ち上げました。部活動や委員会ではなく、完全に有志によ

うな効果です」と指摘します。「実践した翌日から生徒たちが生き生きする、というのはさすがに無理な話です。ただ生徒同士で何かすれ違いがあっても、教員も含めた学年全員がピア・サポーターの経験を共有しているという目に見えない安心感でつながっているはずなんです」

受験生への説明会などの際には、「生徒さんがこんなふうにしっかり挨拶してくれる学校は初めて」「温かい雰囲気」という感想がアンケートに記されているそうです。

「ピア・サポーター活動が、本校の文化の土台になっていると思います」(諸橋先生)

有志のピア・サポーターとして活動する中3生の2人と、担当の本多先生。



る活動です。現在は約20人の生徒が参加しています」

具体的には、『ピア相談用紙』(下図)とポストを用意して、生徒の悩み相談を受け付けています。相談は中1生や中2生からが多く、本多先生のサポーターを受けながら高校生のピア・サポーターが返事の手紙を書くそうです。受け取り方は靴箱に手紙を入れるなど、相談者が選択できます。

学校公開日も活躍の場です。受験生親子向けの相談ブースを設置して質問に直接答えています。同校はアドバンスト、コア、帰国生クラスの3タ

## 生徒自身の人間関係調整能力と 温かい校風・文化を育む ピア・サポート活動



### ★ピア・サポーターの中3生に聞きました!

#### ●受験生からの疑問に答えたM・Rさん(中3)

私がピア・サポーターになったのは、人の相談にのるのが好きだから。先日の学校公開日には受験生の「違うコースでもお互いに仲良くなれるの?」といった質問に答えました。将来は、大学の心理学部に進んでカウンセラーになるのが目標です。

#### ●学会の講習を修了したS・Mさん(中3)

人と話すのが好きな私は母に「やってみれば?」と勧められてピア・サポーターになりました。学会の講習を修了したので、これからしっかりと相談にのれるようになりたいと思っています。道徳での、話し方や聴き方についての授業はとてもためになっています。

「ピア相談用紙」は記入して保健室前のポストに投函します。

① どちらかに○			
(1) 相談	<input type="checkbox"/>		
(2) 意見	<input type="checkbox"/>		
② 1. の内容を記載下さい			
③ 相談(希望)の目的(自分や周りの人との関わり、悩みや不安、悩みを解決したい、相談や相談の場がほしい)			
④ 1. で「相談」の理由は、何にお困りか(お困りごと)			
(1) 希望するピア・サポーター(どちらかに○)			
いる	希望する理由		
いない	理由		
(2) 希望する相談日時			
月	日	曜日	時間
⑤ お希望の相談時間については、お電話ください			
⑥ 希望する相談の方法(希望に○)		<input type="checkbox"/> 直接 <input type="checkbox"/> 電話の先生 <input type="checkbox"/> その他( )	
中・高 年 級	姓 名	連絡先	